

# 1 なん こ こうえん 南湖公園のサクラ並木

# 2 なん こ こうえん 南湖公園のマツ並木

白河市



南湖公園のサクラ並木

## 南湖公園のサクラ並木

- 所在地 白河市字南湖
- 管理者 白河市
- 樹 齢 70年～100年
- 樹 種 ソメイヨシノ約65本

## 南湖公園のマツ並木

- 所在地 白河市字南湖
- 管理者 白河市
- 樹 齢 100年～200年
- 樹 種 アカマツ約230本



南湖公園のマツ並木

## 来歴

「南湖」は、享保元年(1801年)、名君として名高い白河藩主松平定信公(白河樂翁公)が、新田灌漑を目的として造らせた湖で、その周辺を四民共楽の公園とし、湖は藩士らの水練場としても利用された。その全域は、44ha余りであるが、「マツ並木」は、湖畔の東・西・北の方部に広がり、「サクラ並木」は主に東・北の方部にあるサクラの古木の総称である。

# 3 しらかわのせき ふじ 白河関の藤

白河市

- 所在地 白河市大字旗宿字関の森
- 管理者 白河神社
- 樹 齢 400年
- 樹 高 30.0m 胸高周囲 120cm
- 科 名 マメ科 樹 種 フジ

## 来歴

白河の関は古来の奥州三関の一つで、平安中期の歌人能因法師(のういんほうし)の「都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関」の歌で有名である(広辞苑)。「白河関の藤」は、白河の関跡にある白河神社の正面参道に、杉の古木とともに屹立(きつりつ)している。

